

◆ 巻頭言

女性と健康 ― 性差医療の視点から

堂本 暁子

私が変形性膝関節炎で突然歩けなくなったのは63歳のときでした。前の日には八ヶ岳の山麓を歩くほど元気でした。しかも学生時代から山登りをしていたので、歩けなくなるなどということは想像することすらできませんでした。

しかし後になって、女性ホルモンの分泌が少なくなると、多くの女性がリウマチや骨粗しょう症にかかることを知りました。整形外科の待合室を見まわすと、待っている患者さんの4分の3は女性です。つまり女性ホルモンに守られなくなると、女性の身体には更年期障害をはじめとしてさまざまな変化が起きます。しかし、医療は男性中心に組み立てられているので、女性の生涯にわたる健康や病気についての医学的な研究は、これまであまりなされてきませんでした。そのため多くの女性が、なかなか消えない痛みや体調不良に悩まされて、病院に行っても納得がいく診断が受けられないケースが多々ありました。

千葉県知事に就任するやいなや、友人の天野恵子ドクターと共に、東金病院に女性専用外来を開設し、性差医療、千葉県独自の疫学調査などをスタートしました。困っていたのは、千葉県の女性だけではありません。患者さんは、東京、神奈川、そして遠くは東北からもやって来ました。つまり、女性たちは、女性専門の健康づくりや医療を待っていたのです。

東金病院の女性外来に人気が集まったのは、そうした診断のつかない女性たちが的確に治療を受けることができたからです。そして女性外来はわずか2年で全国に広がりました。

私たち女性は、性差医療の視点から、自分の健康管理を心掛けることが大事です。



PROFILE

堂本 暁子
(どうもと あきこ)

前千葉県知事。TBS 記者・ディレクターや参議院議員を務めた後、県知事に就任。8年間、性差医療の取り組みをはじめとして、男女共同参画政策、障害者政策の推進に力を注いだ。『堂本暁子と考える医療革命 性差医療が日本を変える』（中央法規）や『障害者条例を必要としているあなたへ』（ぎょうせい）など著書も多数。